

第3章 アンケート調査の実施結果

第1節 調査の概要

(1) 調査の目的

市民の健康づくりに関する意向を把握し、「甲斐市健康増進計画・食育推進計画」の今期計画の評価及び次期計画の策定のための資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査の概要・回収結果

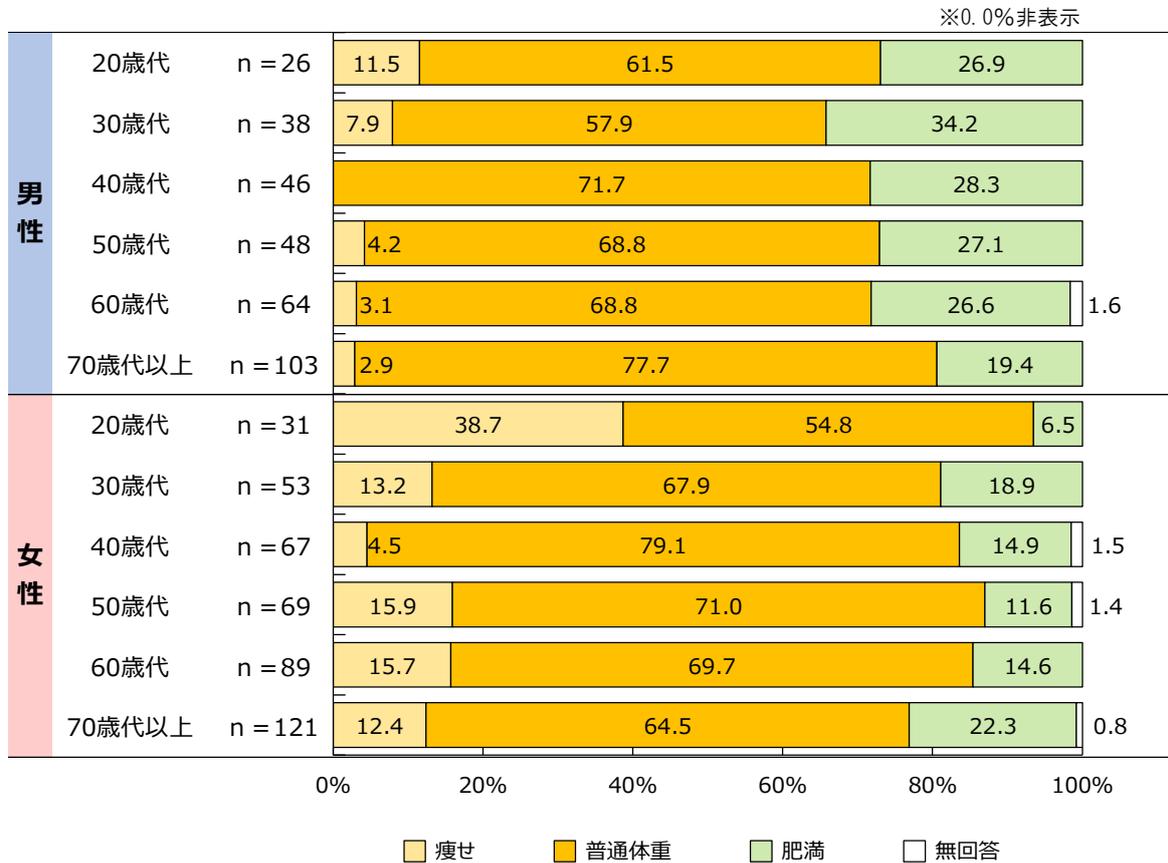
①未就園児・保育園・小学校低学年 保護者	
調査対象	甲斐市在住の未就園児、保育園及び小学校低学年の保護者
調査方法	施設・学校配付－施設・学校回収
調査期間	令和5年7月21日（金）～9月11日（月）
対象者数	380人
有効回収数	367件
有効回収率	96.6%
②小学5年生・中学2年生	
調査対象	甲斐市在住の小学5年生及び中学2年生の方
調査方法	施設・学校配付－施設・学校回収及びインターネット回答
調査期間	令和5年7月21日（金）～9月11日（月）
対象者数	305人
有効回収数	263件
有効回収率	86.2%
③15～19歳【未成年】	
調査対象	甲斐市在住の15～19歳の方
調査方法	郵送配付－郵送回収及びインターネット回答
調査期間	令和5年7月26日（水）～8月14日（月）
対象者数	399人（無作為抽出）
有効回収数	155件
有効回収率	38.8%
④一般市民	
調査対象	甲斐市在住の20歳以上の方
調査方法	郵送配付－郵送回収及びインターネット回答
調査期間	令和5年7月26日（水）～8月14日（月）
対象者数	1,700人（無作為抽出）
有効回収数	765件
有効回収率	45.0%

- ・ 回答率（％）は、その質問の回答者数を基数として算出し、小数第2位を四捨五入しています。したがって、比率の数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答可の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超える場合があります。
- ・ グラフ中の「n（Number of caseの略）」は基数で、その質問に回答すべき人数を表しています。
- ・ ②小学5年生・中学2年生と③15～19歳について、設問・選択肢が共通のものは、全体及びクロス集計のグラフを合わせて作成・掲載しています。なお、選択肢が異なるものは、それぞれの種別でグラフを作成・掲載しています。

第2節 調査結果の概要

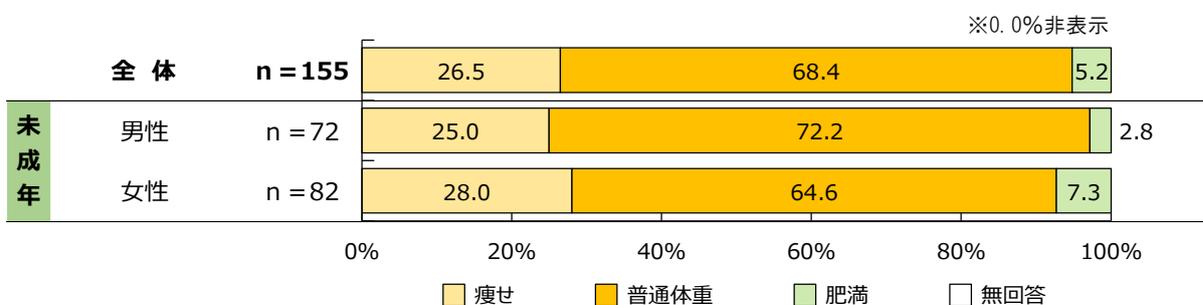
(1) 栄養・食生活について

●肥満度（BMI）※
【20歳以上】



肥満度（BMI）を性年代別で見ると、男性において「肥満」がいずれの年代でも約2割以上となり、特に30～40歳代では約3割と多くなっています。女性においては、20歳代で「痩せ」が38.7%と、他の年代と比較しても高く、「健康日本21（第三次）」の目標とする15.0%より高い状況です。

【未成年】

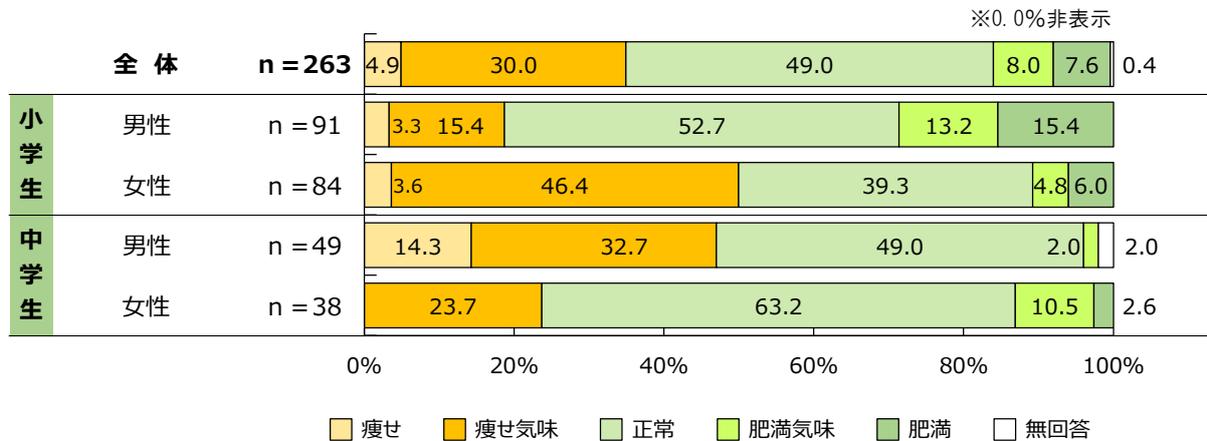


15～19歳の肥満度（BMI）は、「痩せ」が26.5%、「普通体重」が68.4%、「肥満」が5.2%となっています。

性年代別で見ると、「普通体重」が15～19歳男性は72.2%、女性は64.6%とともに最も多くなっています。女性は、男性に比べ、やせ・肥満の割合が高くなっています。

●ローレル指数※

【小学5年生・中学2年生】



小中学生のローレル指数は、「正常」が49.0%と最も多く、次いで「やせぎみ」が30.0%、「太り気味」が8.0%などとなっています。

性年代別でみると、小学5年生男子は「正常」が52.7%、小学5年生女子は「やせぎみ」が46.4%、中学2年生男子は「正常」が49.0%、中学2年生女子は「正常」が63.2%と最も多くなっています。

※BMI：肥満度を表す指標として用いられている体格指数で、肥満や低体重（やせ）の判定基準となります。計算方法は、【体重(kg)】÷【身長(m)²】

※ローレル指数：学童の体格を評価する指数。計算方法は、【体重(kg)】÷【身長(cm)×10⁷】

●自分の体型をどう思うか (%)

【小学5年生・中学2年生、未成年(女子)】

	太っていると思う	標準(ふつう)だと思う	やせていると思う
小学5年生女子	28.6	47.6	13.1
中学2年生女子	44.7	36.8	5.3
未成年女子	22.0	65.9	9.8

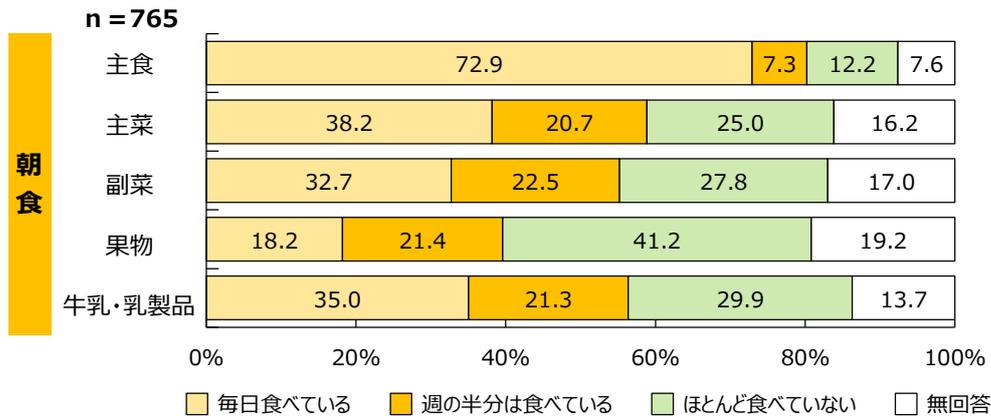
自分の体型については、中学2年生女子において、実際の体格より「太っていると思う」と回答した人が他の年代より高くなっています。

●ダイエット経験の有無の割合 (%)

【小学5年生・中学2年生、未成年(女子)】

	今している	したことがある	したことはないが しようと思っている	したことがない
小学5年生女子	9.5	15.5	11.9	63.1
中学2年生女子	10.5	34.2	21.1	34.2
未成年女子	19.5	28.0	24.4	28.0

●朝食・夕食の主菜、副菜、果物、牛乳・乳製品の摂取状況
【20歳以上】



●朝食において主食、主菜、副菜を毎日食べている人の割合 (%)

	主食	主菜	副菜
20歳代	63.2	28.1	21.1
30歳代	59.3	29.7	19.8
40歳代	74.3	42.5	33.6
50歳代	68.6	37.3	28.8
60歳代	72.5	42.5	36.6
70歳代以上	83.3	40.1	40.1

●朝食・昼食・夕食において果物、牛乳・乳製品を「ほとんど食べていない」と回答した人の割合 (%)

※朝食・昼食・夕食の全てにおいて無回答の方は集計対象外

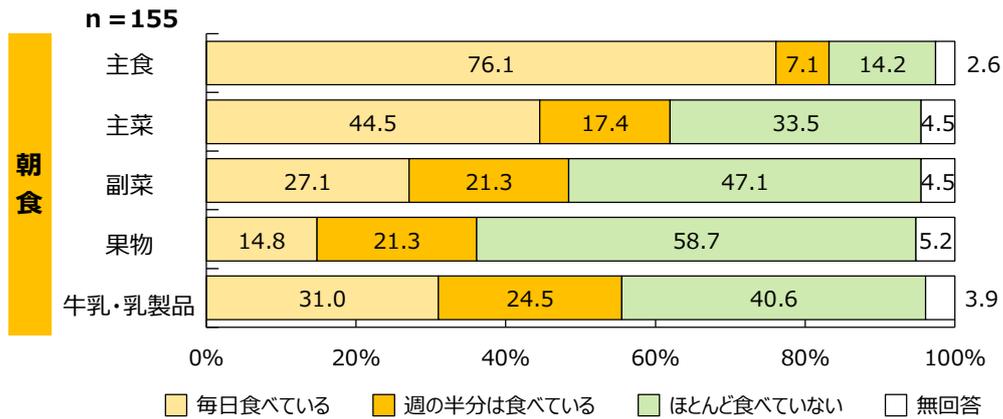
	果物	牛乳・乳製品
ほとんど食べていない	29.9	18.3

主食、主菜、副菜、果物、牛乳・乳製品を摂取する頻度について、朝食で主食を毎日食べていると回答した人は、72.9%です。一方、朝食で主菜・副菜の摂取状況をみても、毎日食べていると回答した人は、主菜が38.2%、副菜が32.7%となり、主食・主菜・副菜をそろえて食べている人が少なくなっています。

また、20歳代・30歳代においては、「主菜」「副菜」を毎日食べていると回答した人が、他の年代と比較して少なくなっています。

なお、1日のうち「果物」「牛乳・乳製品」をほとんど食べていない人は、「果物」が29.9%、「牛乳・乳製品」が18.3%となっています。生活機能の維持向上、及び生活習慣病予防等生涯を通じた健康づくりのためにも、適量摂取することが必要です。

【未成年】



●朝食において主食、主菜、副菜を毎日食べている人の割合 (%)

	主食	主菜	副菜
男性	80.6	54.2	33.3
女性	72.0	35.4	20.7

●朝食・昼食・夕食において果物、牛乳・乳製品を「ほとんど食べていない」と回答した人の割合 (%)

※朝食・昼食・夕食の全てにおいて無回答の方は集計対象外

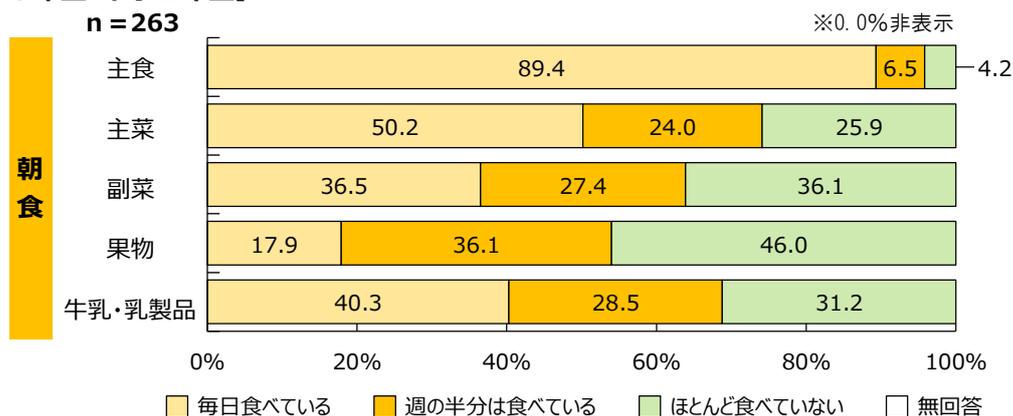
	果物	牛乳・乳製品
男性	47.1	19.4
女性	33.8	25.9

主食、主菜、副菜、果物、牛乳・乳製品を摂取する頻度について、朝食において主食・主菜・副菜を「毎日食べている」と回答した人は、女性よりも男性の方が多くなっています。

また、20歳以上及び小中学生に比べ、「果物」「牛乳・乳製品」を3食のうちで1回も摂取していない人の割合は、高くなっています。特に「牛乳・乳製品」をほとんど摂取していない人の割合は、男性より女性のほうが多く、さらに年代が進むにつれ割合が高くなっています。

別の設問では、朝食をまったく摂らない人が11.0%おり、小中学生より欠食の割合が増加しています。

【小学5年生・中学2年生】



●朝食において主食、主菜、副菜を毎日食べている人の割合 (%)

		主食	主菜	副菜
小学生	男性	91.2	51.6	39.6
	女性	89.3	42.9	31.0
中学生	男性	93.9	67.3	42.9
	女性	78.9	39.5	34.2

朝食において、性年代別で見ると、約8割から9割が主食を摂取していると回答していることに対して、主菜の摂取は、約4割から7割と差があります。中学生男子の朝食における主菜の摂取が約7割に対して、中学生女子は約4割となっています。

なお、別の設問において、小中学生を合わせて3.4%の人が朝食を全く摂らないと回答しています。

●朝食を食べない理由（複数回答可、%）

【未成年】

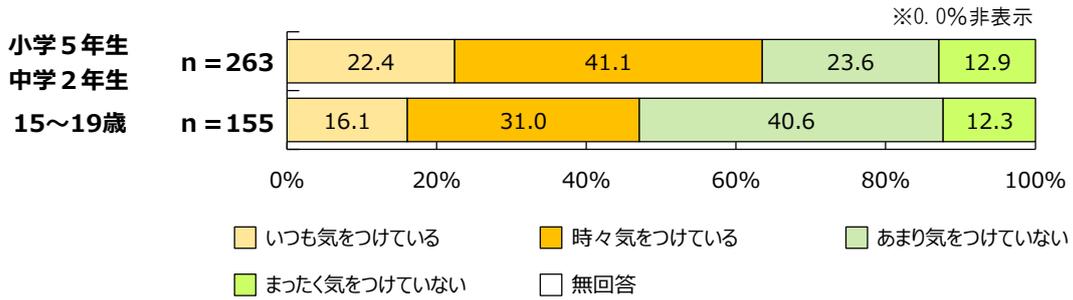
	1位	2位	3位
未成年	食欲がない 58.8	朝、起きられない 52.9	食べる時間がない 52.9

●朝食を食べない理由（単一回答、%）

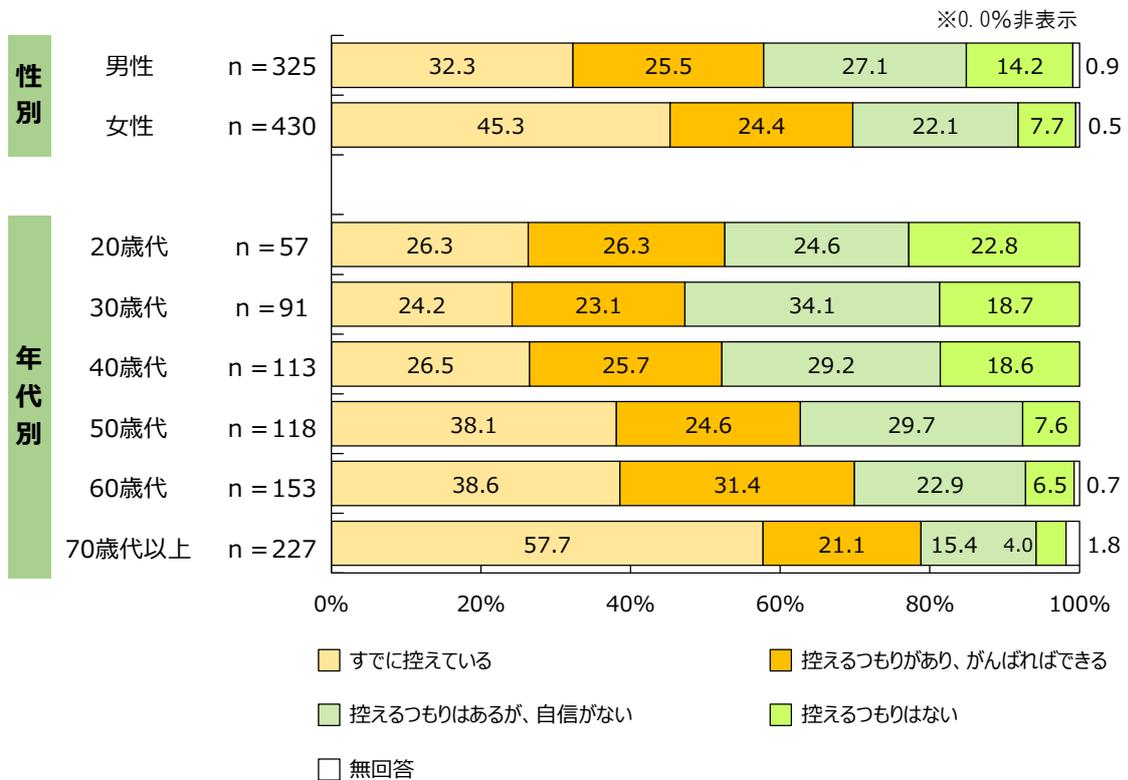
【20歳以上】

20歳以上	朝食を摂る習慣がない 40.4	朝は食欲がない 29.8	食べる時間がない 14.0
-------	--------------------	-----------------	------------------

●日頃から塩分の過剰摂取について気をつけているか
【小学5年生・中学2年生・未成年】



●食塩の多い料理の節制について
【20歳以上】



食塩の多い料理を控えているかについては、小学5年生・中学2年生に比べ、15～19歳においては、5割以上の方が『気をつけていない』と回答しています。20歳以上では、女性で「すでに控えている」と回答した人が45.3%おり、男性より意識が高い様子がうかがえます。

年代別でみると、70歳代以上においては「すでに控えている」が57.7%と多く、他の年代においては約2～4割と少なくなっています。

●自身や家族が家庭での食事づくりに関して優先していること（複数回答可、%）

	1位	2位	3位
20歳以上	栄養バランス 62.7	自分や家族の好み 50.7	いろいろな種類の食材を使用する 44.3

食事づくりに関して優先していることは、「栄養バランス」が最も多く、62.7%となっています。

●自身や家族が食品購入の際に意識していること（複数回答可、%）

	1位	2位	3位
保護者	価格 81.7	鮮度 66.5	賞味（消費）期限 60.8
20歳以上	価格 75.0	賞味（消費）期限 68.5	鮮度 68.4

食品購入においては、保護者・20歳以上において、ともに「価格」、「鮮度」、「賞味（消費）期限」が、「産地」や「原材料」、「添加物」に比べ重視されています。

（2）運動や日頃の活動について

●1日の平均歩数

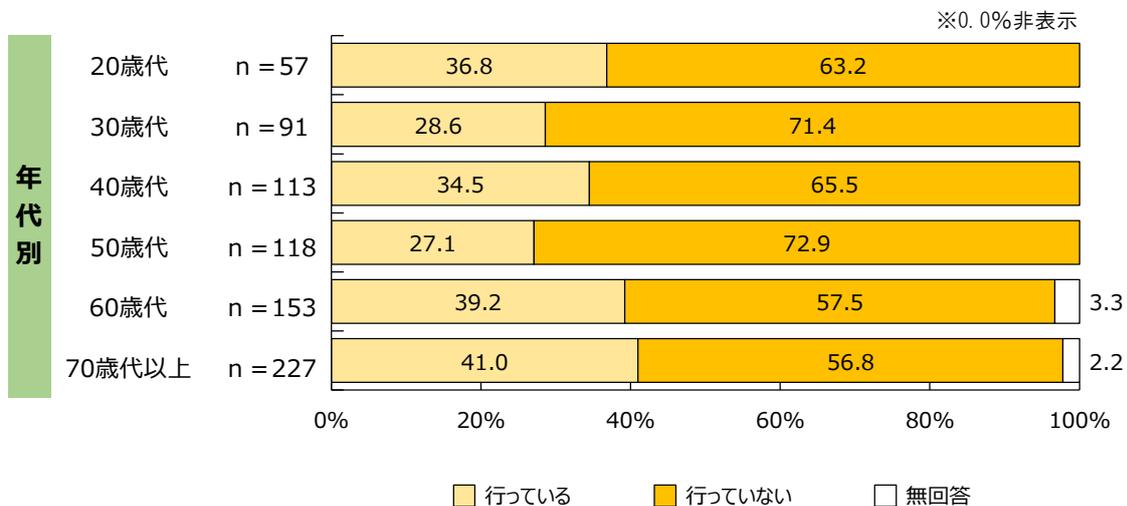
【20歳以上】

	20～64歳男性	20～64歳女性	65歳以上男性	65歳以上女性
前回結果	5,652歩	4,690歩	5,617歩	4,789歩
今回結果	6,075歩	5,251歩	5,198歩	4,699歩

前回と比較して、65歳以上の男女の歩数が落ちていることが課題です。

●日常的な運動やスポーツ競技の実施の有無

【20歳以上】



日常的な運動やスポーツ競技の実施の有無は、30歳代・50歳代において「行っていない」が7割を超えて多くなっています。

●運動の妨げになっていること（複数回答可、%）

【20歳以上】

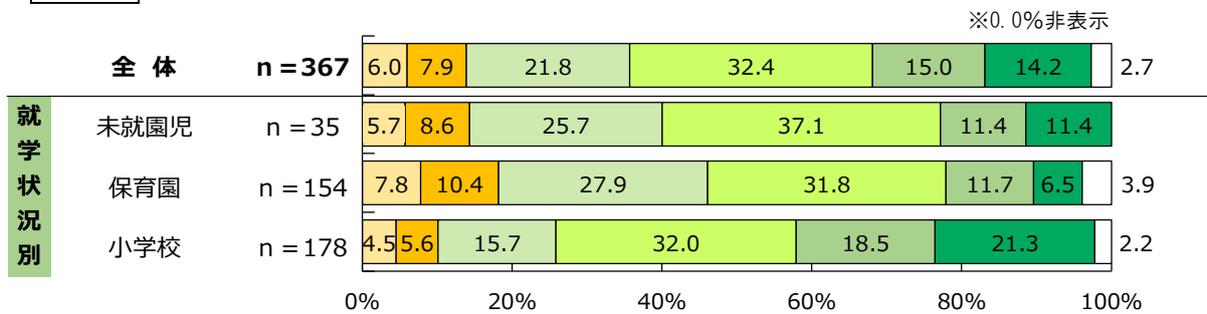
	1位	2位	3位
20歳代	仕事や家事で疲れているから 58.3	時間がないから 36.1	・運動できる環境がないため ・運動やスポーツは嫌いだから 16.7
30歳代	仕事や家事で疲れているから 76.9	時間がないから 50.8	費用がかかるから 23.1
40歳代	仕事や家事で疲れているから 58.1	時間がないから 36.5	費用がかかるから 16.2
50歳代	仕事や家事で疲れているから 55.8	時間がないから 43.0	足腰などの痛み 17.4
60歳代	仕事や家事で疲れているから 36.4	足腰などの痛み 23.9	時間がないから 18.2
70歳代以上	足腰などの痛み 32.6	仕事や家事で疲れているから 17.1	時間がないから 15.5

運動の妨げになっていることは、「足腰などの痛み」が、高齢になるほど上位を占めています。

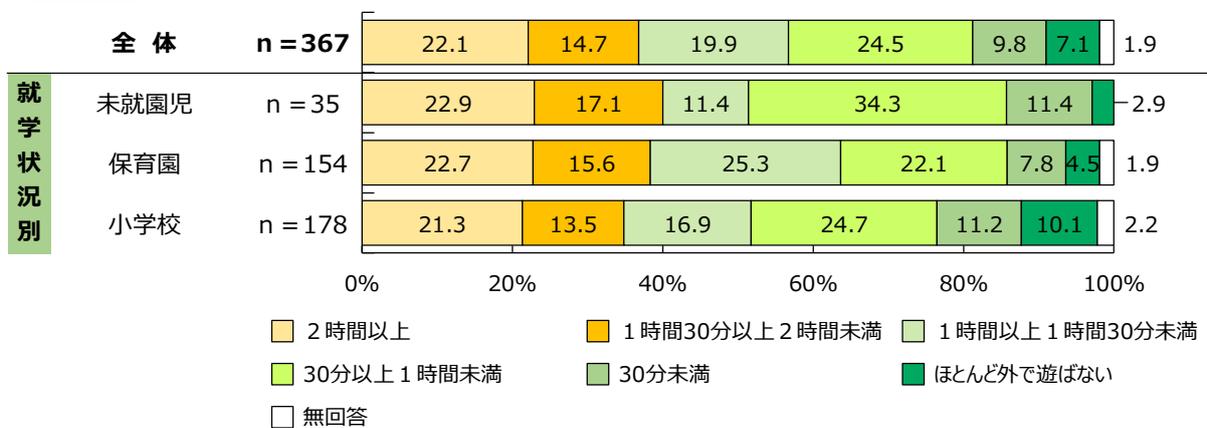
●1日における子どもの外遊びの時間

【未就園児・保育園・小学校低学年 保護者】

（平日）

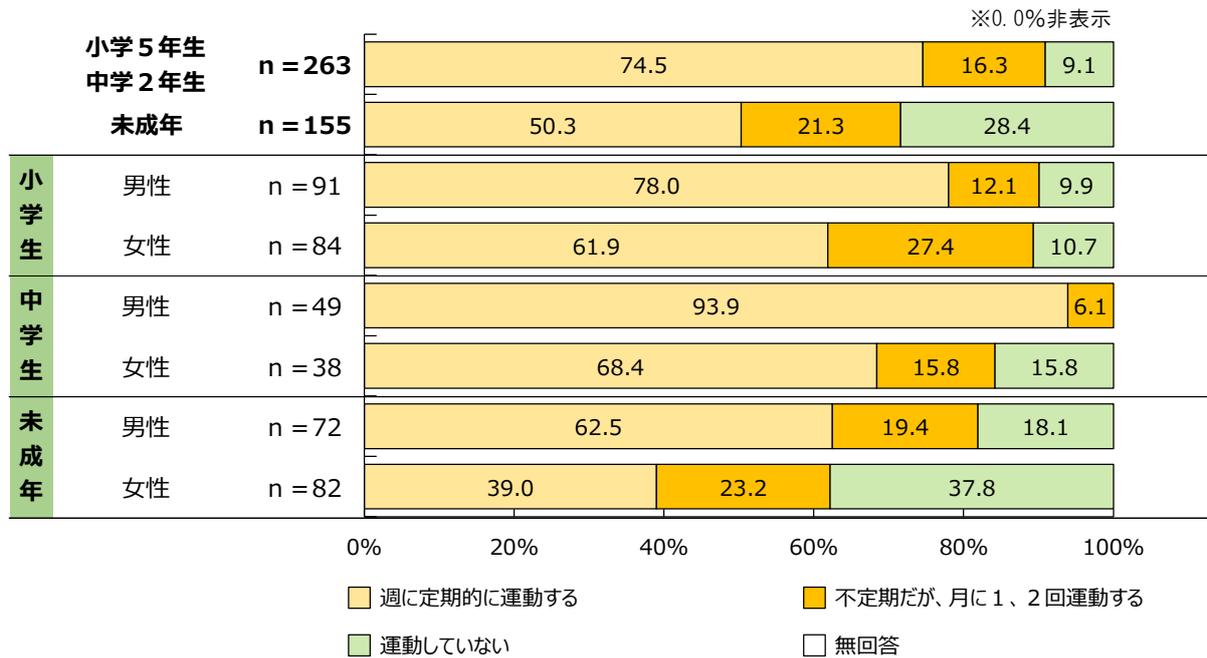


（休日）



1日における外遊びの時間は、「ほとんど外で遊ばない」と回答した人が、平日において14.2%、休日においては7.1%となっています。

● 1週間に運動をする頻度
【小学5年生・中学2年生、未成年】

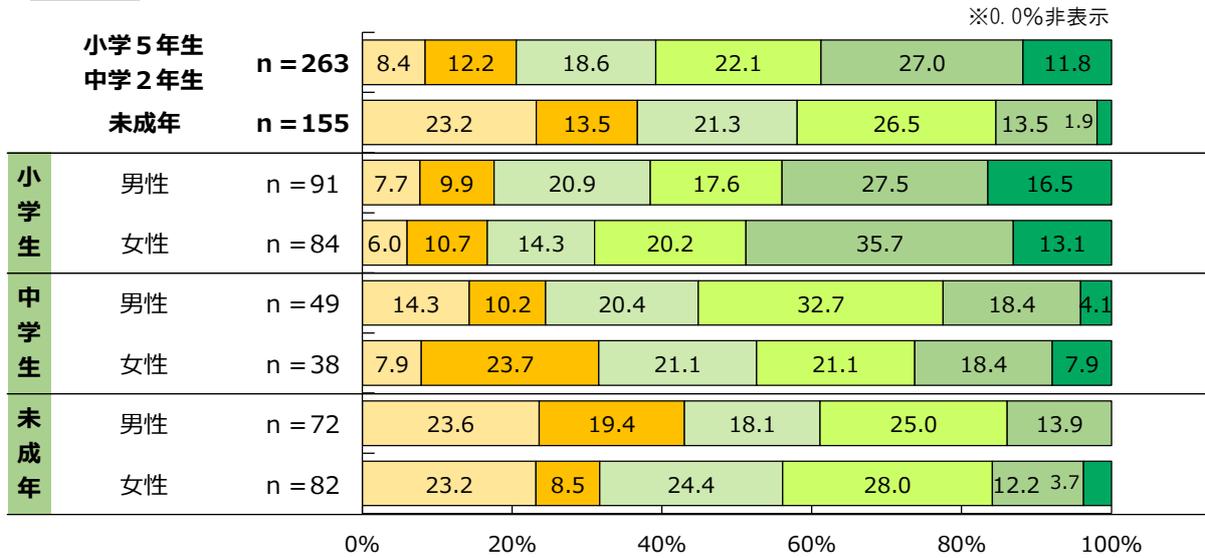


運動をする頻度は、「運動していない」と回答した人が、小中学生において約1割、未成年においては約3割となっています。

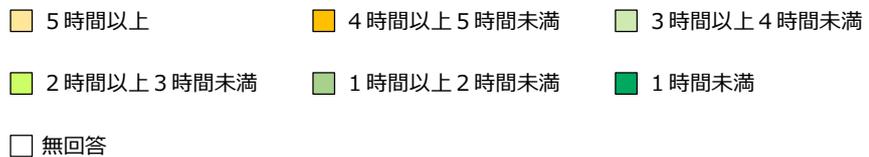
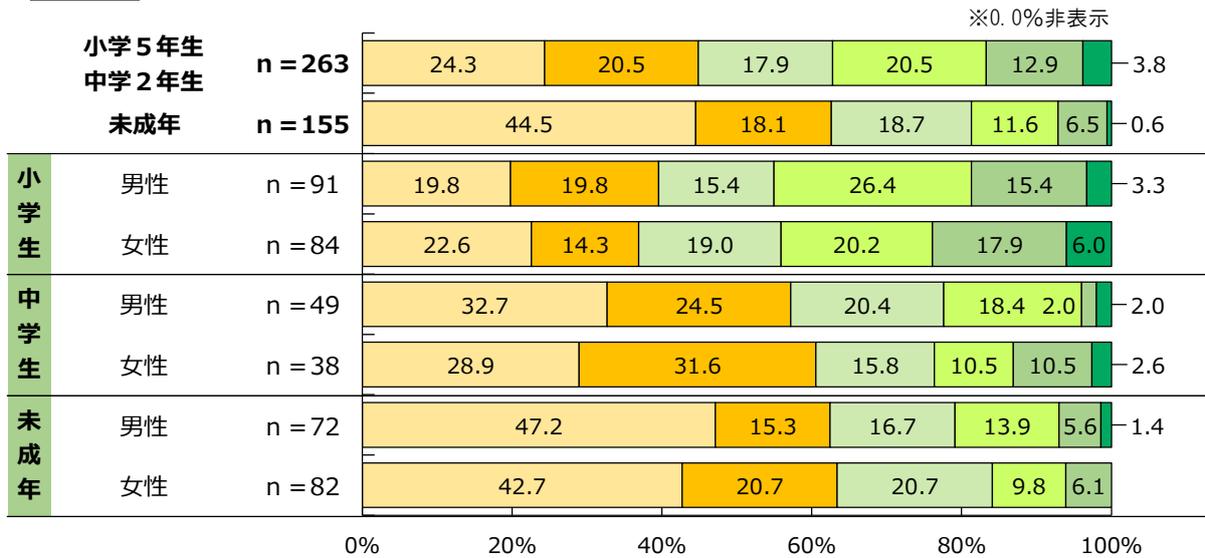


● 1日あたりのテレビや情報端末の平均使用時間
【小学5年生・中学2年生、未成年】

(平日)



(休日)

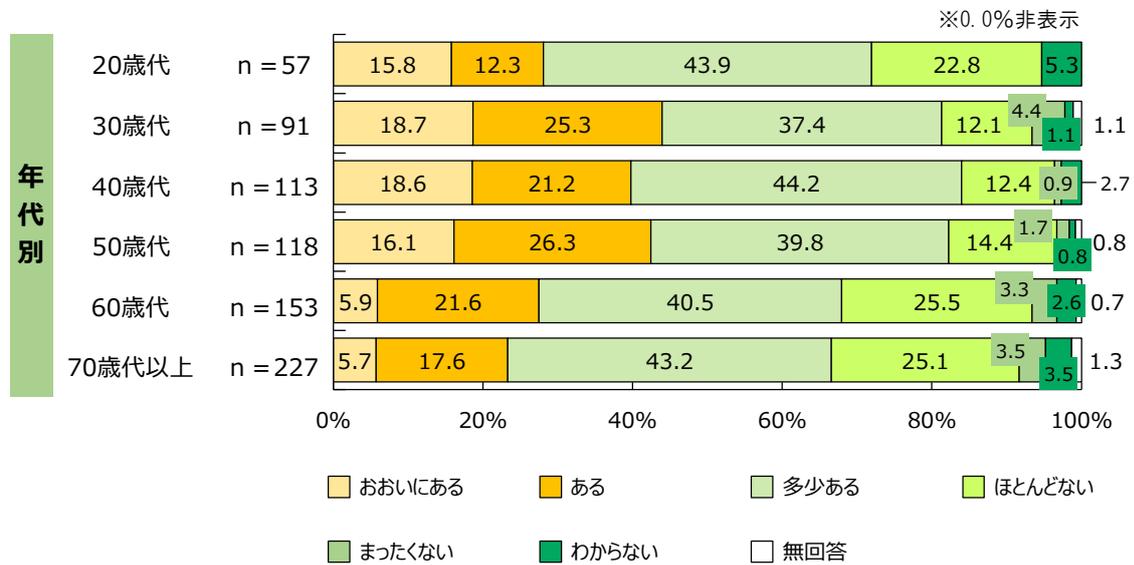


平日の1日あたりのテレビや情報端末の平均使用時間をみると、「5時間以上」が未成年において男女ともに2割を超えています。小中学生においては、いずれも男性の方が女性よりやや多くなっています。

休日の1日あたりのテレビや情報端末の平均使用時間をみると、「5時間以上」と回答した人が小中学生・未成年のいずれにおいても平日の約2倍以上となっています。特に、未成年男性においては47.2%と多くなっています。

(3) 休養やストレスについて

●ストレスの有無
【20歳以上】



●ストレスの原因（複数回答可、%）

※「ストレスの有無」で【おおいにある】【ある】【多少ある】と回答した方のみ

	1位	2位	3位
20歳代	仕事のこと 70.7	経済的なこと 31.7	人間関係のこと 29.3
30歳代	仕事のこと 86.5	経済的なこと 44.6	子育てのこと 31.1
40歳代	仕事のこと 78.9	家庭のこと 44.2	経済的なこと 40.0
50歳代	仕事のこと 76.3	家庭のこと 40.2	経済的なこと 35.1
60歳代	仕事のこと 46.2	健康や病気のこと 40.4	家庭のこと 39.4
70歳代以上	健康や病気のこと 51.0	家庭のこと 35.8	社会全体のこと※ 23.8

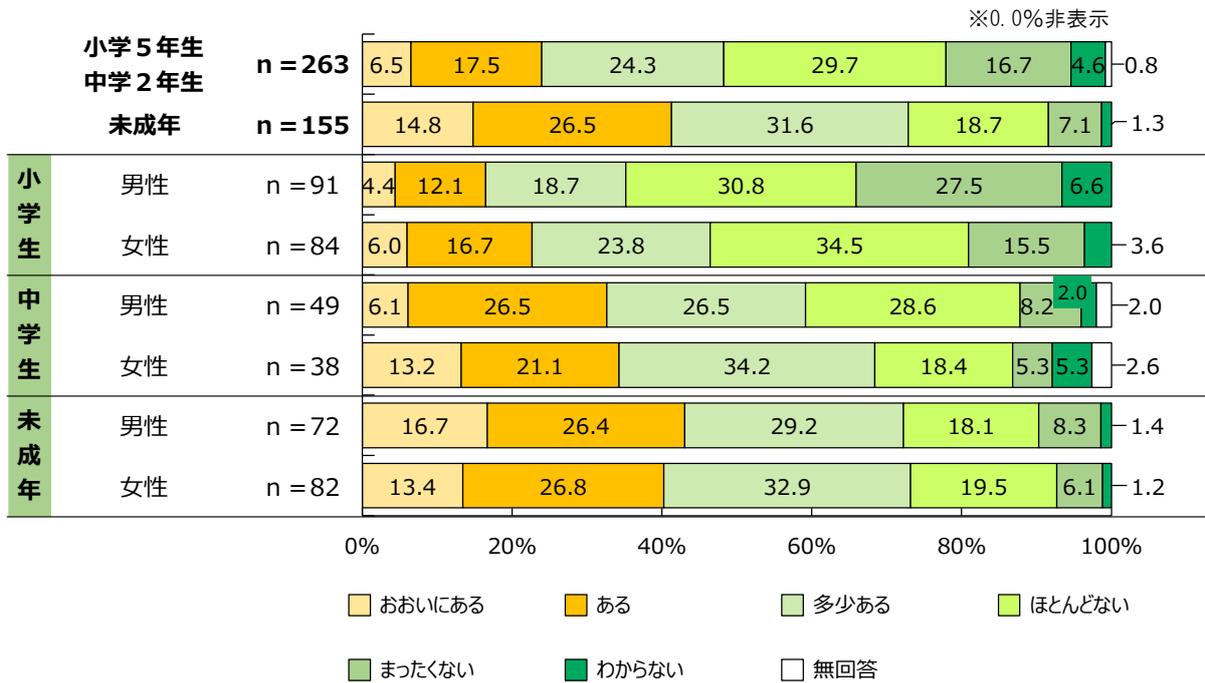
※「社会全体のこと」は、「社会全体のこと（政治・経済・事件・事故・自然災害・戦争など）」を省略したもの

ストレスの有無を年代別で見ると、『ある』（「おおいにある」「ある」「多少ある」の合計）が、30～50歳代において約8割と多くなっています。

ストレスの原因は、20～60歳代において「仕事のこと」が最も多く、特に30歳代においては86.5%となっています。60歳代以上になると、健康や病気のことからストレスの原因の上位となっています。

●ストレスの有無

【小学5年生・中学2年生、未成年】



●ストレスの原因（複数回答可、%）

※「ストレスの有無」で【おおいにある】【ある】【多少ある】と回答した方のみ

	1位	2位	3位
小学5年生 中学2年生	勉強や受験のこと 45.7	友だちのこと 43.3	自分自身のこと 37.0
未成年	勉強や受験のこと 65.5	将来のこと 51.3	自分自身のこと 40.7

現在不安に思うことやストレスを感じることもあるかについては、『ある』（「おおいにある」「ある」「多少ある」の合計）が小学5年生・中学2年生において48.3%、15～19歳においては72.9%となっています。

また、性年代別でみると、小学生においては女性の方が男性より多く約5割、中学生においても女性の方が男性より多く約7割、未成年においては男女ともに約7割となっています。

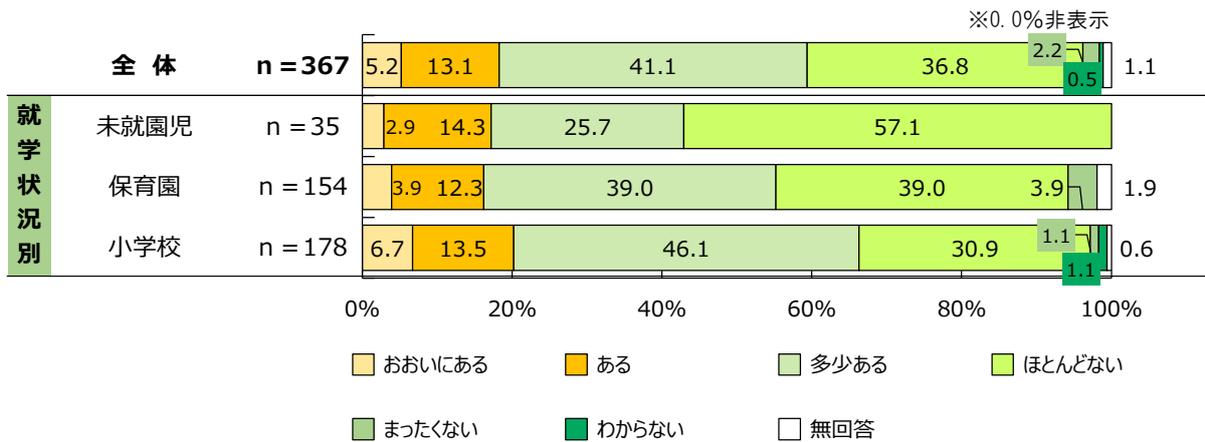
ストレスの原因は、小学5年生・中学2年生と15～19歳ともに「勉強や受験のこと」が最も多くなっています。「自分自身のこと」と回答した方は、中学生女子・未成年女性の割合が高くなっています。

●悩みを相談できる人（複数回答可、%）

	1位	2位	3位
小学5年生 中学2年生	家族 76.0	友だち 69.6	学校の先生、スクールカウンセラー 30.0
未成年	友達、先輩 77.4	家族、親せき 64.5	学校の先生、スクールカウンセラー 19.4

相談できる人がいないと答えた人は、小中学生では3.8%である一方、15～19歳では、9.0%まで増加しています。

●子育てに対する不安やストレスの有無
【未就園児・保育園・小学校低学年 保護者】



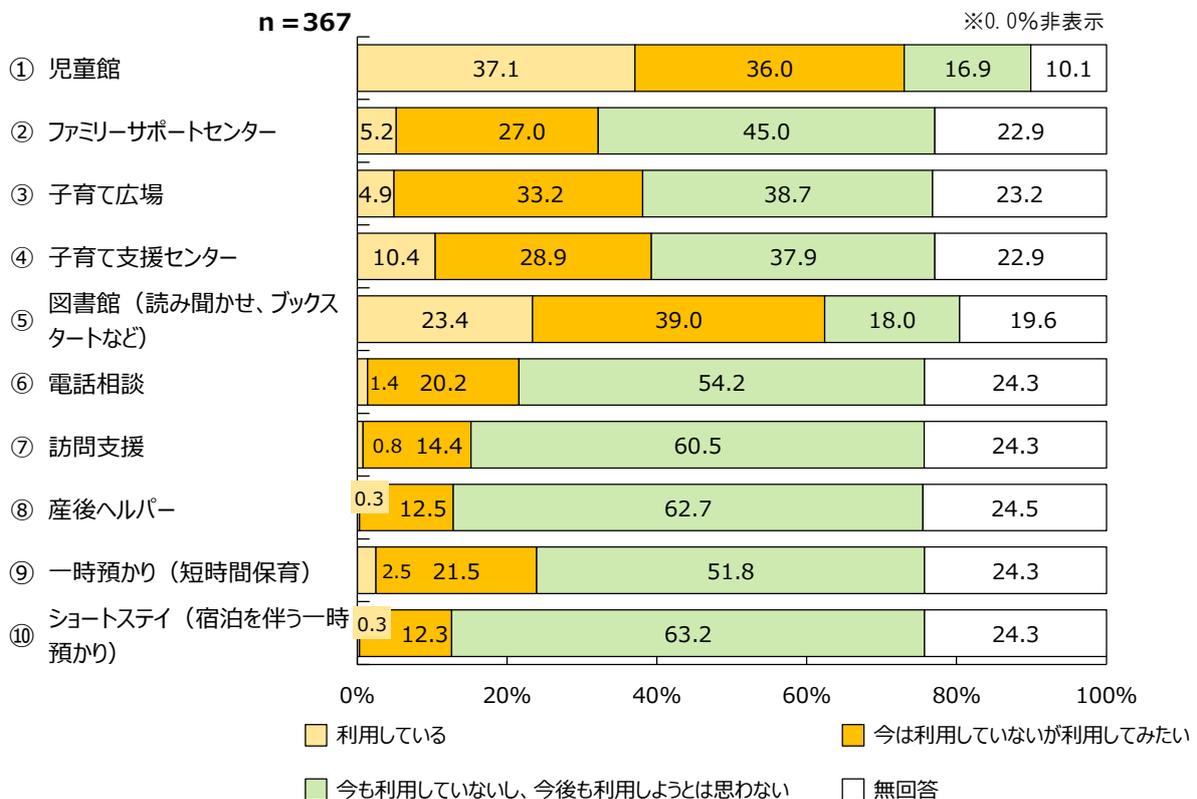
●ストレスの原因（複数回答可、%）

※「ストレスの有無」で【おおいにある】【ある】【多少ある】と回答した方のみ

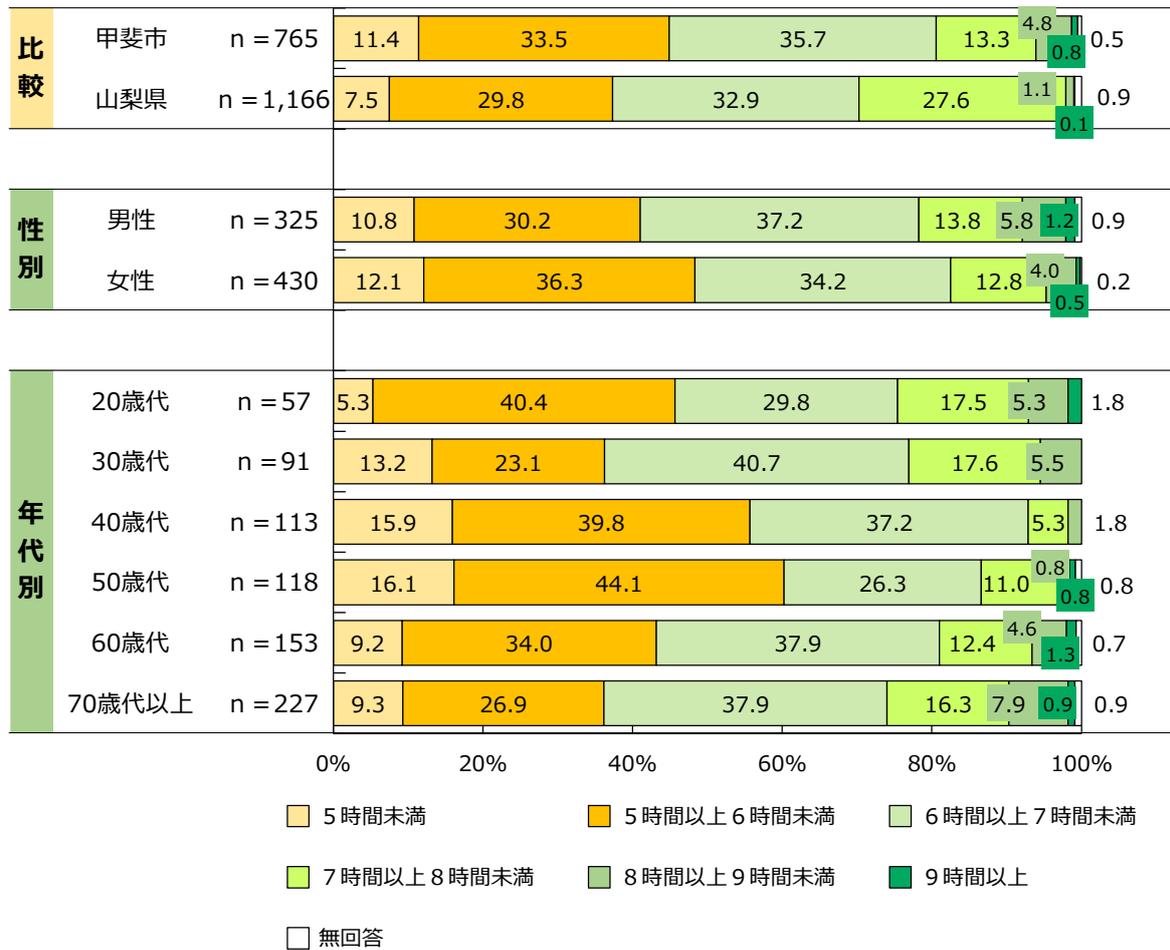
	1位	2位	3位
保護者	経済面 40.8	子育てに自信がない 26.1	発育について 20.2

子育てに対する不安やストレスがあるかについては、『ある』（「おおいにある」「ある」「多少ある」の合計）が59.4%となっており、ストレスの原因は、「経済面」が40.8%と最も多くなっています。

●ふだん利用している子育てサービス



●直近1か月間における1日の平均睡眠時間
【20歳以上、山梨県との比較】



※山梨県：令和5年度「山梨県県民健康づくり実践状況調査」より

直近1か月間での1日の平均睡眠時間を性別でみると、女性において「5時間以上6時間未満」が36.3%と多くなっています。

山梨県と比較すると、睡眠時間が6時間未満の人は、甲斐市は44.8%と、山梨県より7.5ポイント多くなっています。

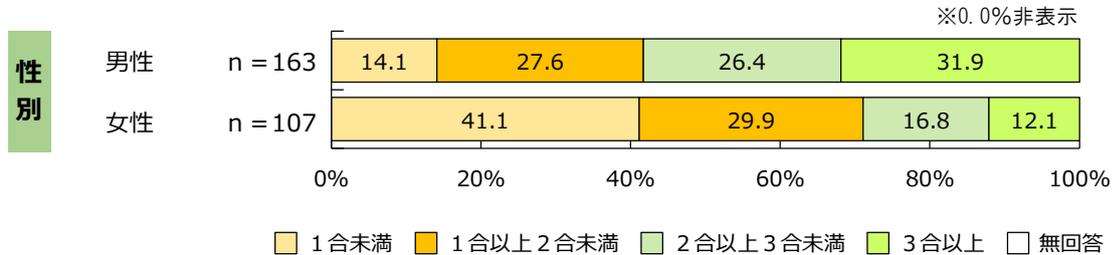


(4) お酒・たばこについて

● 1日の飲酒量

※「普段の飲酒状況」で【毎日お酒を飲んでいる】【週に5～6日お酒を飲む】【週に3～4日お酒を飲む】【週に1～2日お酒を飲む】と回答した方のみ

【20歳以上】



飲酒量の合計を性別で見ると、生活習慣病のリスクを高めるとされる1日平均の飲酒量は、男性ではおおむね2合以上、女性ではおおむね1合以上と示されています。男性において2合以上飲酒する人は58.3%、女性において1合以上飲酒する人は58.8%です。

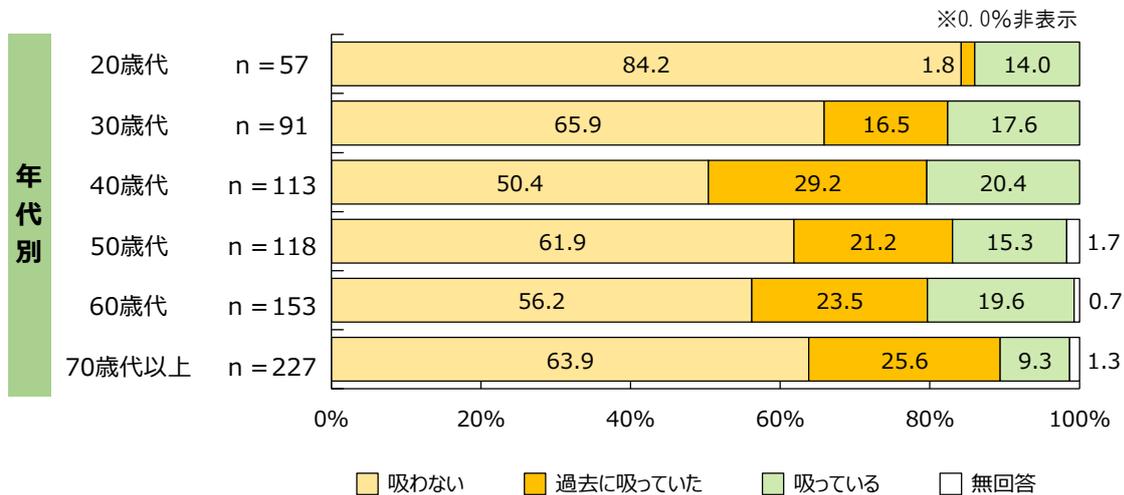
● 直近1か月間で一口でも飲酒したことがあるか

【未成年】

20歳未満の直近1か月において、飲酒したことが「ある」と1.9%が回答しており、わずかですが、飲酒経験がある人がいます。

● 喫煙の有無

【20歳以上】



喫煙の有無を年代別で見ると、20歳代において「吸わない」が84.2%と多くなっています。40歳代・60歳代においては「吸っている」が約2割と他の年代よりも多くなっていますが、40歳代においては、過去に吸っていた人と回答した人が約3割おり、禁煙に取り組んだ割合も多くなっています。

●たばこの有害性や影響について知っていること（複数回答可、%）

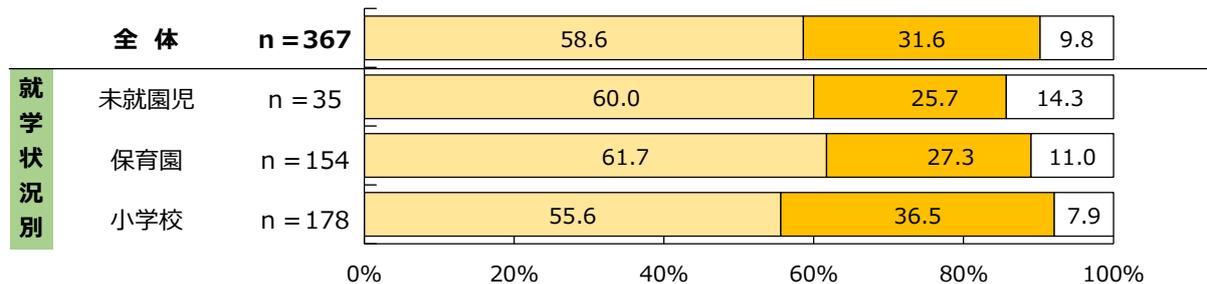
	1位	2位	3位
30歳代	肺がん、咽頭がんなどのがん 89.0	ニコチン依存症 75.8	受動喫煙による周囲の人へのリスク 74.7
40歳代	肺がん、咽頭がんなどのがん 90.3	ニコチン依存症 71.7	受動喫煙による周囲の人へのリスク 69.0
50歳代	肺がん、咽頭がんなどのがん 80.5	受動喫煙による周囲の人へのリスク 68.6	ぜんそくや気管支炎など肺や呼吸器の病気 66.1
60歳代	肺がん、咽頭がんなどのがん 89.5	ぜんそくや気管支炎など肺や呼吸器の病気 73.9	受動喫煙による周囲の人へのリスク 69.3

喫煙のリスクについては、一定程度浸透していると考えられるため、禁煙へのきっかけづくりが必要です。特に、子育て世代（30～40歳代）については、受動喫煙の影響について知っている割合が高くなっています。

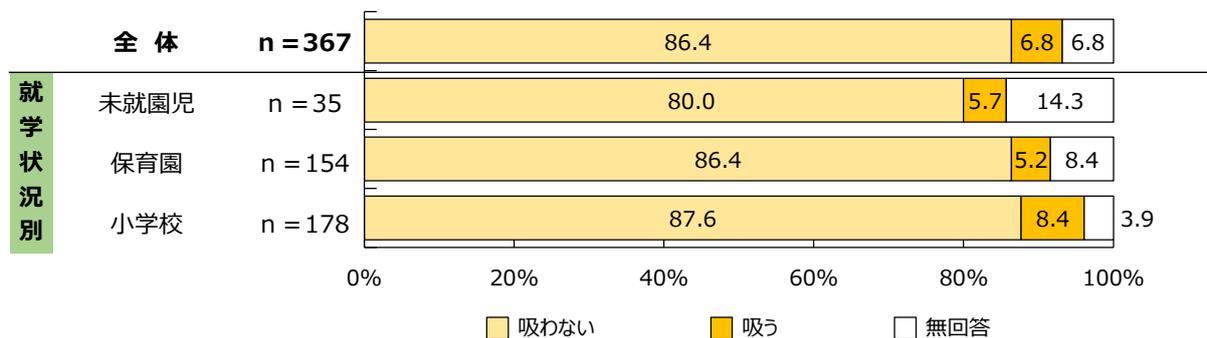
●家庭での喫煙

【未就園児・保育園・小学校低学年 保護者】

（子どもの父親）



（子どもの母親）



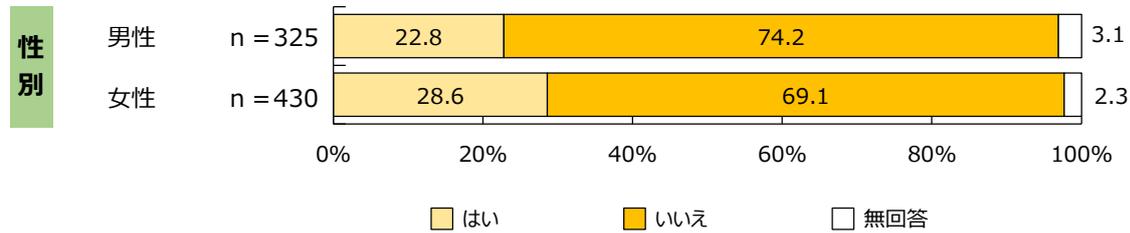
家庭内の喫煙者については、「吸う」が子どもの父親において31.6%、子どもの母親においては6.8%となっています。

●これまでに一回でも喫煙したことがあるか

【小学5年生・中学2年生、未成年】

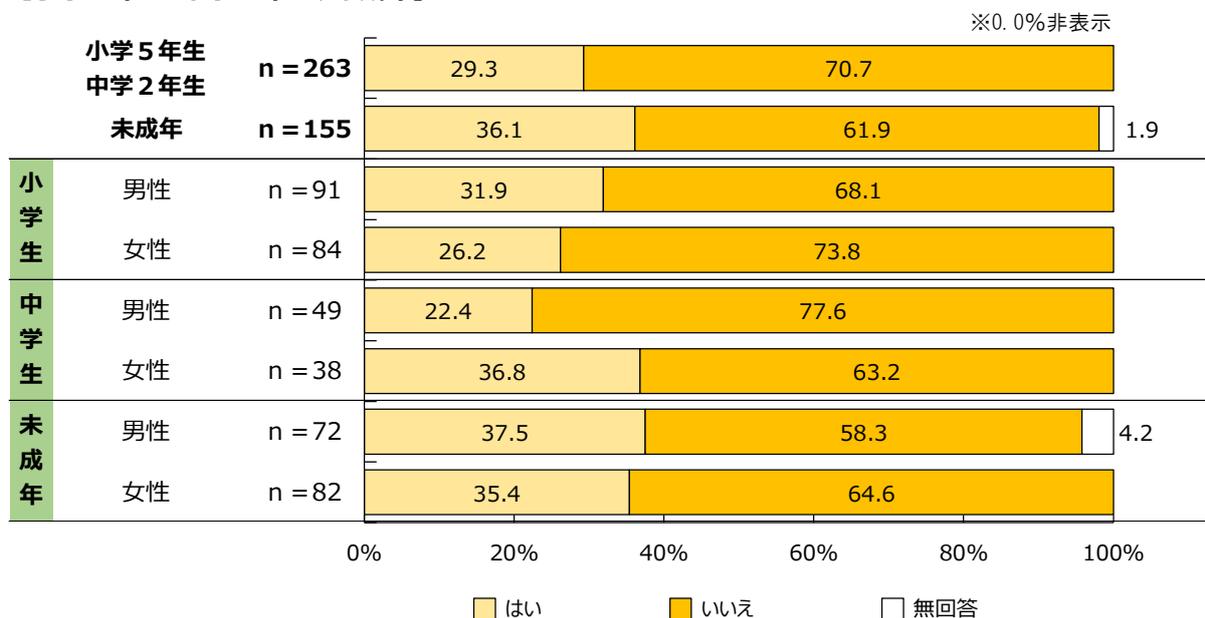
今までにたばこを吸ったことがあるかについては、「ない」が小学生において100%となっています。一方、中学生は1.3%、15～19歳は6.9%の回答者において、喫煙経験があると回答しています。

●直近1か月間において受動喫煙で不快な思いをしたか
【20歳以上】



直近1か月間において、受動喫煙で不快な思いをしたことがあると回答した人は、男性において約2割、女性においては約3割となっています。

【小学5年生・中学2年生、未成年】



直近1か月間において、受動喫煙で不快な思いをしたことがあると回答した人は、小中学生において約3割、未成年においても約3割強となっています。

●受動喫煙があった場所（複数回答可、%）
【20歳以上、小学5年生・中学2年生、未成年】

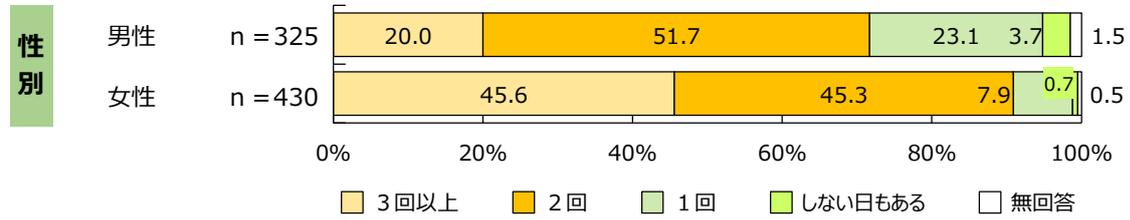
	1位	2位	3位
20歳以上	路上(通学・通勤路や、まちなか) 46.5	飲食店 27.2	家庭 23.3
小学5年生 中学2年生	路上(通学路やまちなか) 54.5	公園 32.5	家庭 27.3
未成年	路上(通学路やまちなか) 57.1	駅、バス停 32.1	家庭 23.2

実際に受動喫煙があった場所は、20歳以上・小中学生・未成年のいずれにおいても「路上(通学・通勤路や、まちなか)」が最も多く、約5～6割となっています。また、いずれにおいても「家庭」が約2～3割となっています。

(5) 歯や口の健康について

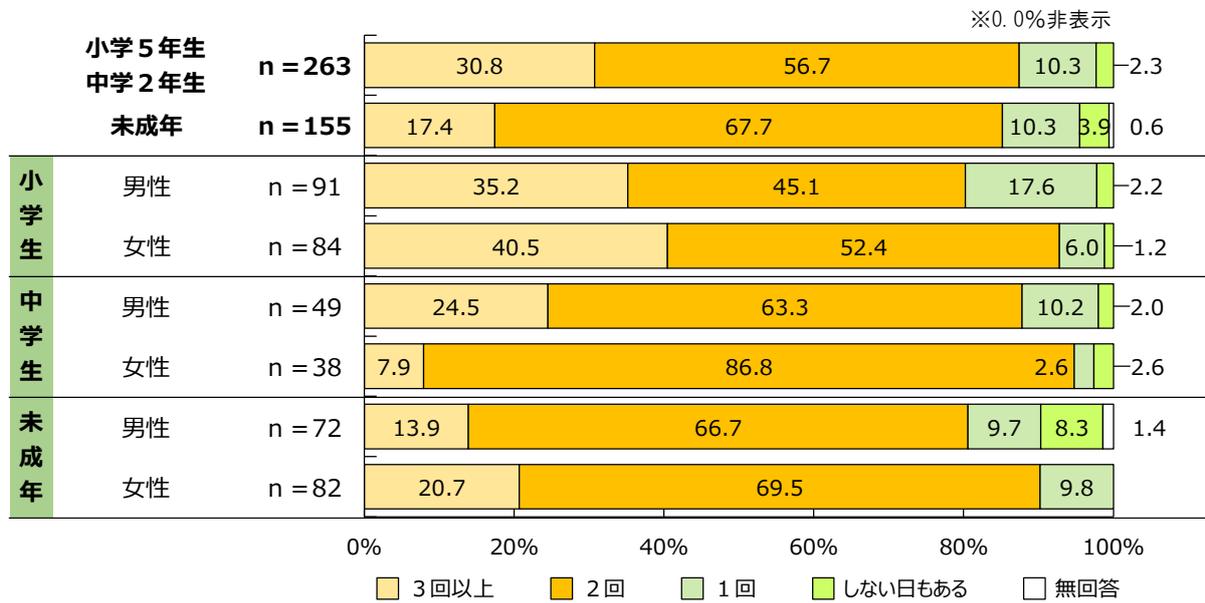
● 1日における歯みがきの回数

【20歳以上】



歯みがきの回数について、1回以下と回答した人が男性において約25%となっており、女性の約3倍となっています。

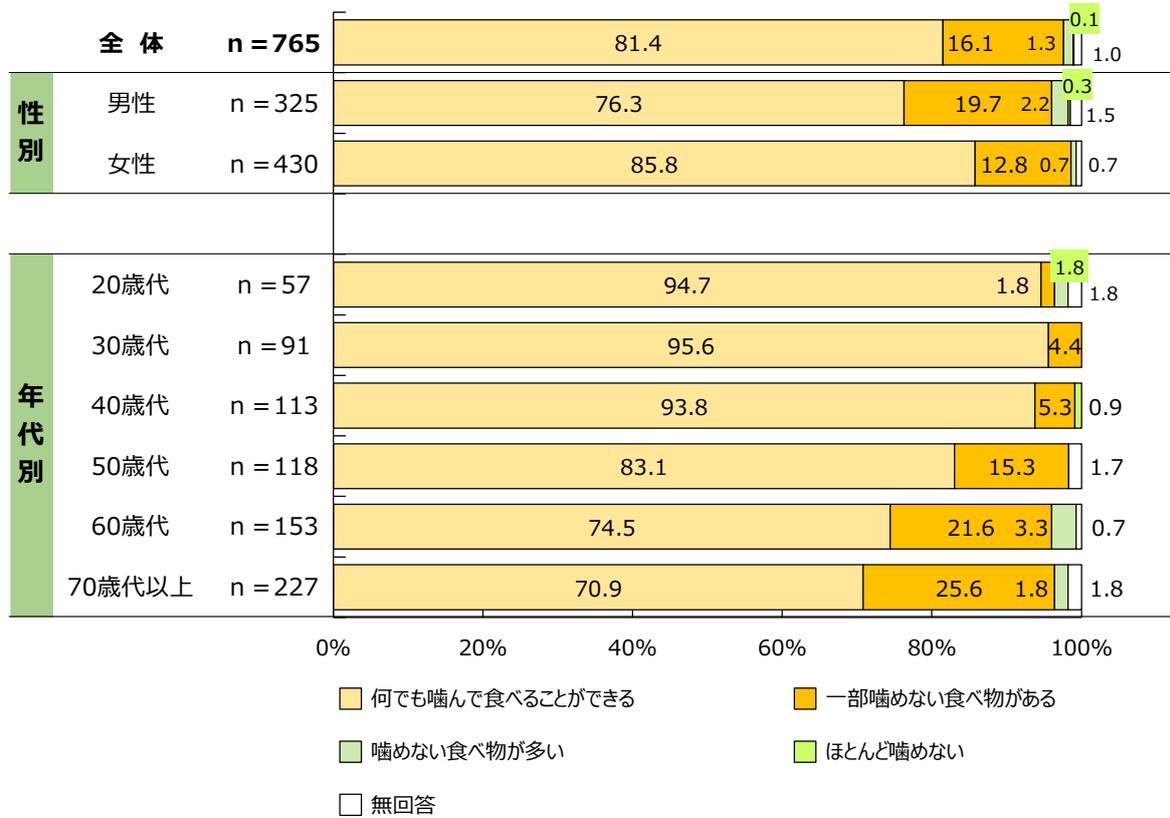
【小学5年生・中学2年生、未成年】



歯みがきの回数について、1回以下と回答した人が、小中学生・未成年においてともに約1割となっています。また、いずれの年代においても、女性より男性の方が多くなっています。

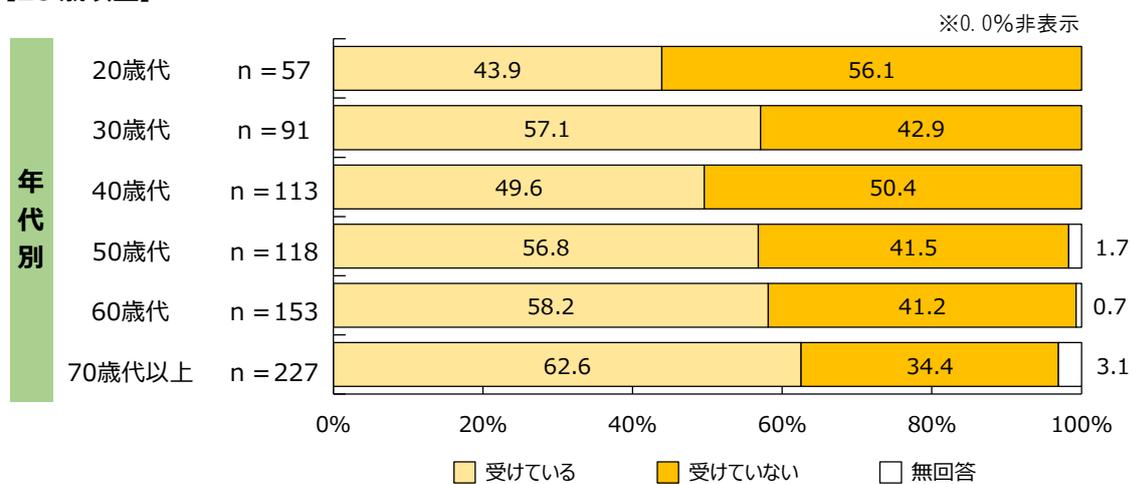


●噛んで食べる時の状態
【20歳以上】



他の年代と比較すると、50歳代より「一部噛めない食べ物がある」と回答している割合が増えており、70歳代においては、約3割が噛みにくさを感じています。性別でみると、男性において「一部噛めない食べ物がある」が19.7%と多くなっています。女性においては「なんでも噛んで食べることができる」が85.8%と多くなっています。

●定期的な歯科検診の受診の有無
【20歳以上】

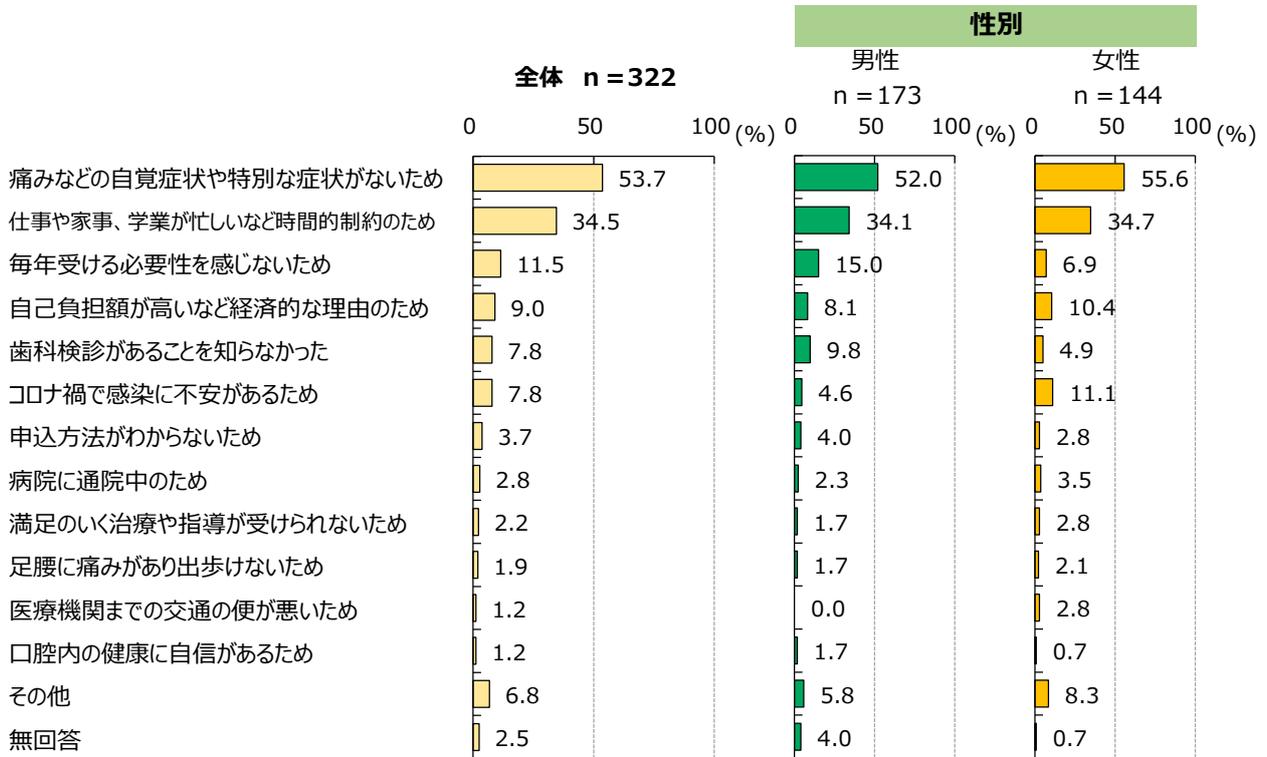


定期的な歯科検診の受診の有無は、「受けている」が30～70歳代以上において約5～6割となっている一方、20歳代においては43.9%とやや少なくなっています。

● 歯科検診を受けない理由

※「定期的な歯科検診の受診の有無」で【受けていない】と回答した方のみ

【20歳以上】



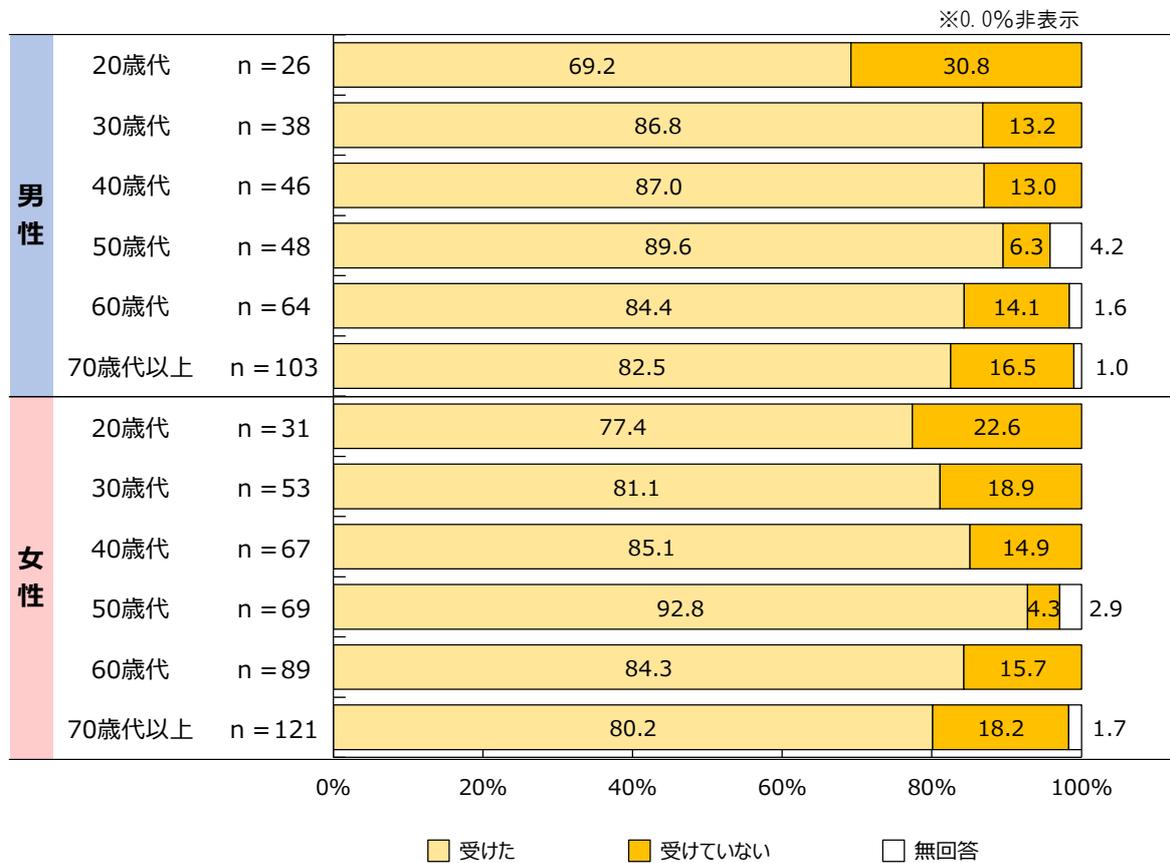
歯科検診を受けない理由は、「痛みなどの自覚症状や特別な症状がないため」が53.7%と最も多く、次いで「仕事や家事、学業が忙しいなど時間的制約のため」が34.5%、「毎年受ける必要性を感じないため」が11.5%などとなっています。

性別でみると、男性において「毎年受ける必要性を感じないため」が15.0%と女性より多くなっています。女性においては「コロナ禍で感染に不安があるため」が11.1%と男性より多くなっています。



(6) 健康診査の受診等について

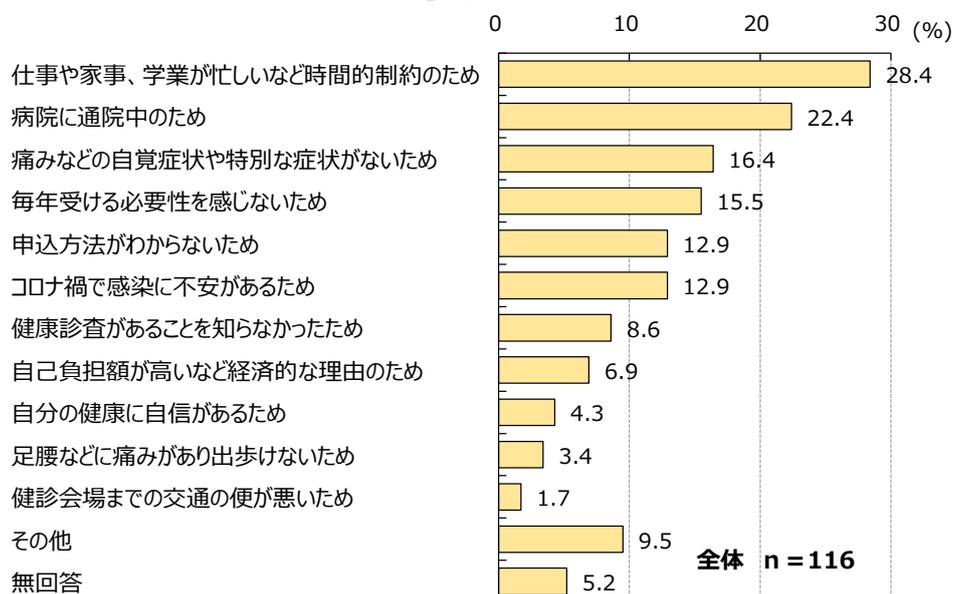
●過去1年の健康診査や人間ドック受診有無
【20歳以上】



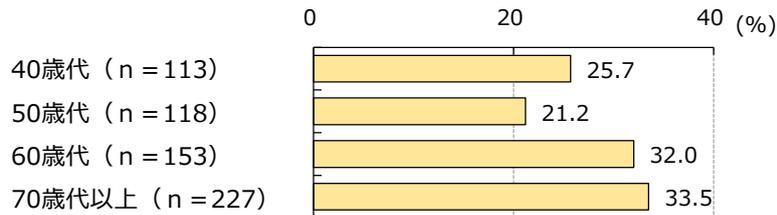
過去1年の健康診査や人間ドックの受診有無を性年代別で見ると、男性・女性ともに「受けた」が約7割以上となっており、女性50歳代においては、92.8%と多くなっています。一方、男性20歳代においては、69.2%と他の年代に比べて少なくなっています。

●健康診査を受けていない理由

※「過去1年の健康診査や人間ドック受診有無」で【受けていない】と回答した方のみ



●がん検診を1つも受けていない人の割合
【20歳以上】



40歳以上において、がん検診を1つも受けていない人は、2～3割程度となっています。

(7) 食育について

●食育で必要だと思うこと（複数回答、%）

※『『食育』への関心(興味)の有無』で【関心(興味)がある】【どちらかといえば関心(興味)がある】と回答した方のみ
【20歳以上】

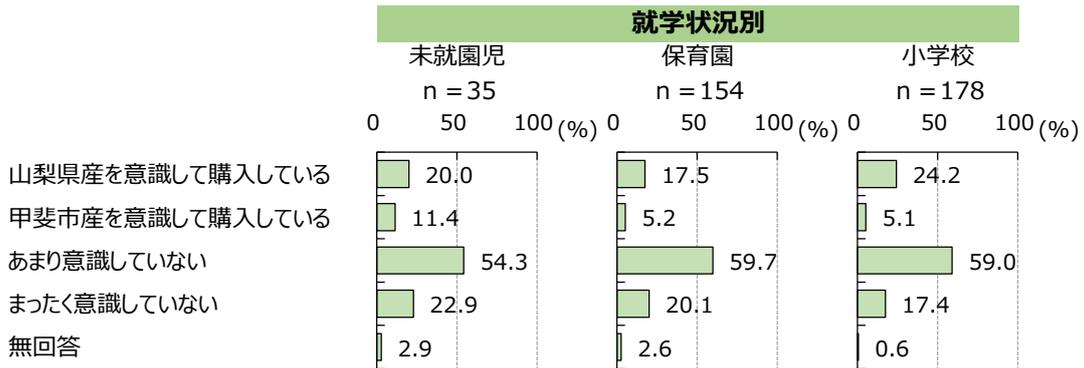
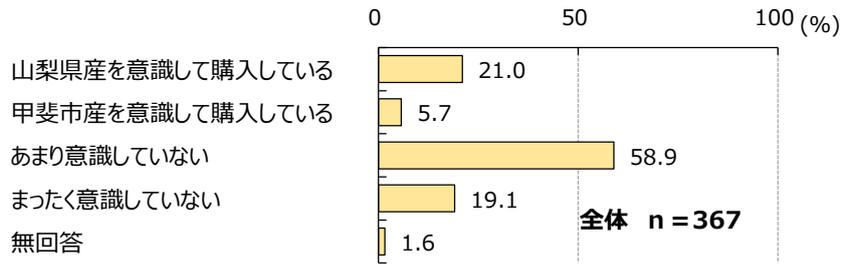
	1位	2位	3位
男性	栄養バランス 76.1	食の安全性の理解 53.5	食材の知識(旬や栄養素など) 52.8
女性	栄養バランス 80.6	・食材の知識(旬や栄養素など) ・食品ロスをなくす 59.5	食の安全性の理解 52.1
20歳代	栄養バランス 85.7	食品ロスをなくす 42.9	食の安全性の理解 35.7
30歳代	栄養バランス 82.8	・食材の知識(旬や栄養素など) ・食事のマナー 55.2	食品ロスをなくす 53.4
40歳代	栄養バランス 74.2	食品ロスをなくす 57.6	食事のマナー 54.5
50歳代	栄養バランス 76.3	食材の知識(旬や栄養素など) 60.5	食品ロスをなくす 57.9
60歳代	栄養バランス 81.1	食材の知識(旬や栄養素など) 64.2	食品ロスをなくす 60.0
70歳代以上	栄養バランス 78.7	食の安全性の理解 63.1	食材の知識(旬や栄養素など) 58.2

食育で必要だと思うことを性別・年代別で見ると、男性・女性、全ての年代において「栄養バランス」がいずれも7割を超えて最も多くなっています。

	1位	2位	3位
小学5年生 中学2年生	食事のマナー 81.7	食品ロスをなくす 62.0	食の安全性の理解 46.0
未成年	栄養バランス 75.5	食事のマナー 70.3	食品ロスをなくす 63.2

若い世代では、「食事のマナー」が上位となっています。

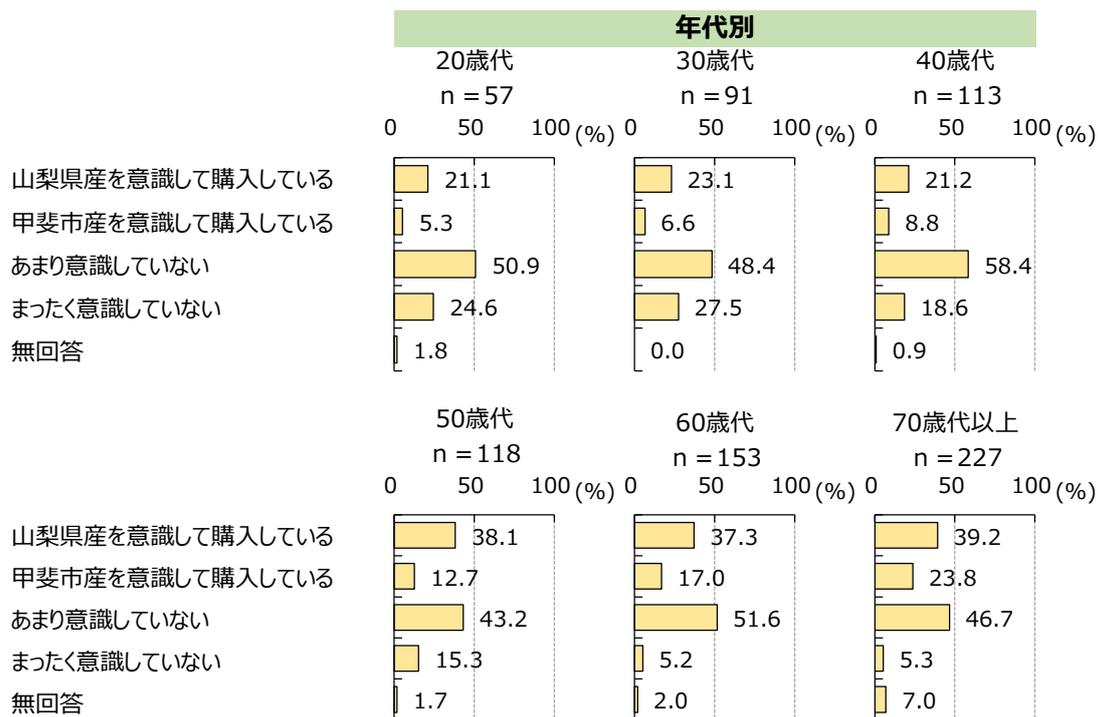
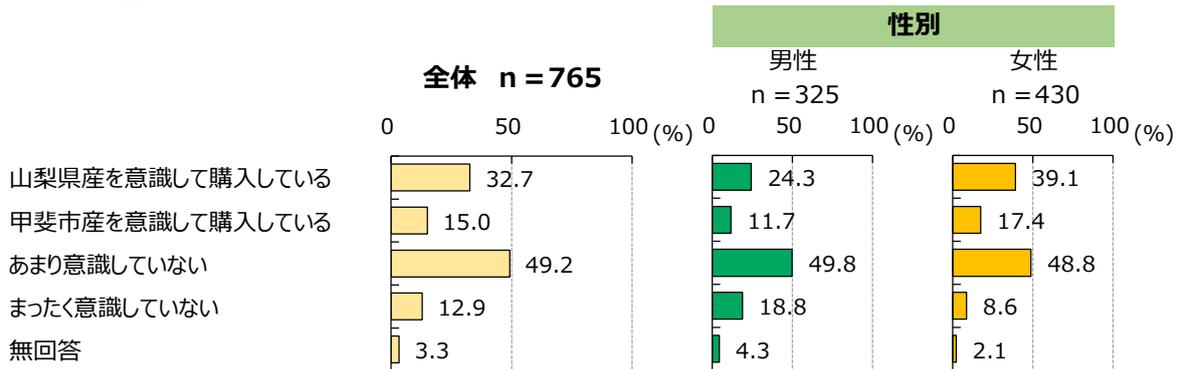
●地元農産物の購入意識
【未就園児・保育園・小学校低学年 保護者】



家庭において、地元の農産物を意識して購入しているかについては、「あまり意識していない」が58.9%と最も多く、次いで「山梨県産を意識して購入している」が21.0%、「まったく意識していない」が19.1%などとなっています。



【20歳以上】



地元（甲斐市産、山梨県産）の農産物を意識して購入しているかについて、男性において「まったく意識していない」が18.8%と多くなっています。年代別では、40歳代が「あまり意識して購入していない」という割合が高く、70歳代以上が甲斐市産・山梨県産を意識して購入している傾向がみられています。

●農業体験等の有無（複数回答可、%）

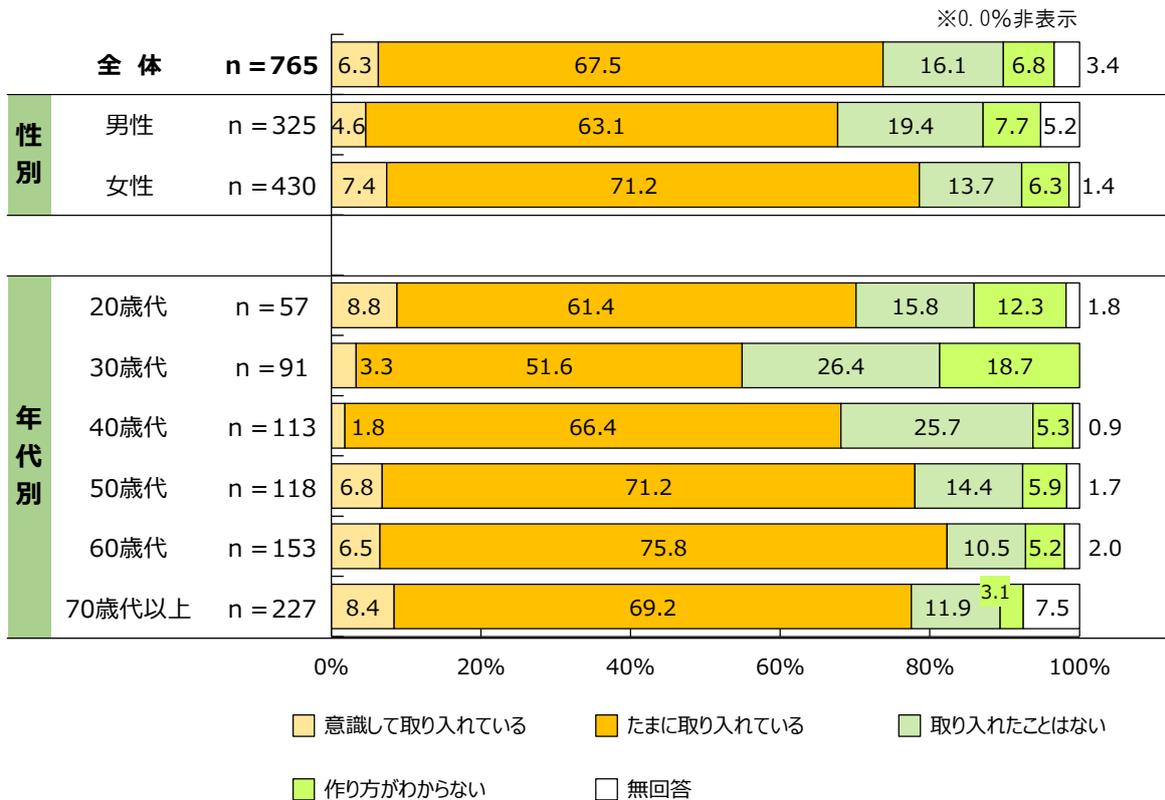
	1位	2位	3位
小学5年生 中学2年生	学校で野菜作りや家畜の世話などの体験をしたことがある 44.5	自分の家、親戚、知り合いなどで農業や水産業を手伝ったことがある 43.0	体験したことはない 23.6
未成年	学校で野菜作りや家畜の世話などの体験をしたことがある 61.9	自分の家、親戚、知り合いなどで農業や水産業を手伝ったことがある 45.8	観光地でも掘り、果物狩り、乳しぼりなどの体験をしたことがある 14.2

農業体験等をしたことがある人については、複数の経験をしている一方、「体験したことはない」と答えた人は、小中学校において23.6%、15～19歳においては9.7%となっています。

●郷土料理の家庭への取り入れ
【未就園児・保育園・小学校低学年 保護者】



【20歳以上】



郷土料理の家庭への取り入れについては、30歳代において「取り入れたことがない」「作り方がわからない」が45.1%と他の年代に比べて郷土料理を取り入れている割合が少なくなっています。

●「食品ロス」を軽減するために家庭で取り組んでいること（複数回答可、%）

	1位	2位	3位
20歳以上	冷凍保存を活用する 63.5	残さず食べる 56.3	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てずに、自分で食べられるか判断する 49.7

●健康面で心がけていること（複数回答可、%）

【未就園児・保育園・小学校低学年 保護者、20歳以上】

	1位	2位	3位
保護者	家族と団らんしている 62.9	十分な睡眠時間をとっている 47.4	栄養のバランスを考えて食事をしている 44.1
	4位	5位	6位
	好きな趣味をする 34.3	友人・知人と会っている 33.2	家族と電話で話したりメールをする 29.7

	1位	2位	3位
20歳以上	栄養のバランスを考えて食事をしている 45.6	十分な睡眠時間をとっている 38.2	好きな趣味をする 35.4
	4位	5位	6位
	運動やスポーツ競技をしている 29.3	友人・知人と会っている 23.8	家族と団らんしている 23.4

健康面で心がけていることは、子育て中の世代（保護者）において、「家族と団らんしている」が62.9%と最も多く、次いで「十分な睡眠時間をとっている」が47.4%となっています。20歳以上は、「栄養のバランスを考えて食事をしている」が45.6%と最も多く、性年代別でみると男性より女性のほうが心がけており、また、年代が進むにつれ心がけていると回答しています。次いで「十分な睡眠時間をとっている」が38.2%となっています。

●健康や食育を推進するための事業で参加したいと思うもの（複数回答可、%）

【20歳以上】

	1位	2位	3位
20歳以上	心の健康に関する講演会・教室 25.0	スポーツに関するイベント・講演会・教室 21.4	生活習慣病予防のための教室 18.3

健康や食育を推進するための事業で参加したいと思うものは、心の健康に関する講演会・教室が25.0%、次いでスポーツに関するイベント・講演会・教室が21.4%、生活習慣病予防のための教室が18.3%となっています。